

平成18年度大学入試センター試験について —英語リスニングテストを中心として—

大学入試センター事業部

1. はじめに

平成18年度大学入試センター試験は、高等学校の新教育課程で行う最初の試験であり、6教科28科目を出題する。昨年度との主な変更点は、国語が2科目から1科目に、理科が科目構成の変更に伴い、物理Ⅰ、化学Ⅰ、生物Ⅰ、地学Ⅰに理科総合A、理科総合Bが加わった6科目に、外国語は、『英語』にリスニングテストが加わり、『英語』の一領域として実施することである。

また、すべての受験者は、新教育課程の内容による試験を受験するのが原則であるが、平成18年度試験に限り、旧教育課程履修者に対する経過措置を講ずることとし、旧教育課程履修者はこの経過措置により出題する科目、問題についても選択解答できることとした。この経過措置の内容については、平成17年5月26日付けで関係機関等へ通知した「平成18年度大学入学者選抜大学入試センター試験実施要項」や本誌前号（No.27）に掲載しているので、詳細はそちらを参照していただきたい。

ここでは、新たに導入する「英語リスニングテスト」について、その概要や受験上の留意点など基本的な事項について述べる。

2. リスニングテスト受験上の留意事項等について

リスニングテストは、受験者個々にICプレーヤー等を配付し、監督者の指示どおりに受験者自ら操作を行いながら準備を進めていき、解答開始後は、ICプレーヤーから流れる音声問題を設問ごとに解答していく試験である。

(1) 実施教科・科目

リスニングテストは外国語『英語』の一領域で実施するので、『英語』を選択する受験者は、筆記試験とリスニングテストの双方を受験する。『英語』以外を選択した場合は、リスニングテストを受験できない。

(2) 試験・解答時間

試験時間60分の中の、30分間で音声問題を解答する。

(3) 実施方式

- ①問題冊子、解答用紙、ICプレーヤー、イヤホン、音声メモリ（音声問題）を受験者個々に配付する。
- ②解答開始前に、監督者の指示に従い、ICプレーヤーから音声が正常に聞こえるかの確認を行う。
- ③監督者の指示に従いICプレーヤーを操作し、音声問題を聞き取り、設問ごとに解答用紙にマークする。英語の音声は2回流れる。
- ④問題冊子に解答を記入し、後でまとめて解答用紙に転記する時間は無い。

(4) 受験特別措置

一般教科科目と同様に、リスニングテストにおいても、受験に際し特別な配慮が必要な者に対して、受験特別措置を講ずることとしている。出願時に提出された受験特別措置申請書、診断書に基づき審査の上、措置内容を決定し、申請者に通知する。

【措置の例】

- ・頻尿等の受験者に対する別室の設定
- ・外耳の形状によりイヤホンの装着ができない場合のヘッドホン等の使用
- ・重度難聴者に対するリスニングテストの免除

(5) リスニングテストの流れ

監督者の指示に従い、ICプレーヤ

ーの3つのボタンを順に押すことにより進行する。

- 1 電源ボタン…押すと電源が投入され、右側のランプが黄緑色に点灯する。
- 2 確認ボタン…押すと上部の作動中ランプが赤く点灯し、音量調節のための音声約1分流れる。この音声を聞き、自分に適した音量に調節する。
- 3 再生ボタン…押すと上部の作動中ランプが赤く点灯し、音声問題が流れるので、設問ごとに解答用紙にマークしていく。このボタンは1秒以上の長押しが必要である。

(6) リスニングテスト受験上の注意

- ①遅刻限度が他の試験と異なり、試験開始時刻まで入室していなければ受験できないこと。
- ②受験者が個々に音声を取りながら解答する試験のため、他の受験者の聞き取りに支障をきたす不必要な音を立てないよう注意すること。
- ③試験室に入る前に、携帯電話の電源を切っておくこと。また、アラームは電源を切っていても鳴るので、設定を解除しておくこと。
- ④時計のアラームや時報の設定は解除しておくこと。
- ⑤外部の音の影響を受けにくいイヤホンを使用し、各設問の音声は2回流

れ、音量はいつでも調節することが可能であることから、解答時間中に日常的な騒音（航空機・自動車の騒音、風雨の音、空調の音、せきやくしゃみ等）が発生した場合でも救済措置は行わないこと。

- ⑥解答中に退室することのないよう、試験開始前の休憩時間中にトイレ等を済ませておくこと。
- ⑦解答時間中の質問は、一切受け付けないこと。
- ⑧解答時間中に、万一、ICプレーヤーの故障等が発生した場合、黙って手を高く挙げて監督者に知らせること。
- ⑨試験終了後、問題冊子とともにICプレーヤー、イヤホン、音声メモリを持ち帰ることができること。

(7) 不正行為となることがあるもの（リスニングテスト関連抜粋）

- ①試験時間中に携帯電話を身に付けていること。
- ②試験時間中に携帯電話や時計の音（着信・アラーム・振動音など）を鳴らすこと。
- ③試験監督者の指示に従わず、ICプレーヤーを操作すること。
- ④ICプレーヤーの故障について虚偽の申出をすること。
- ⑤その他、他の受験者の迷惑となる行為等、試験に支障を及ぼす行為をす

ること。

(8) 再テスト

次の①、②の事象が発生した場合、リスニングテスト終了後、別のICプレーヤーを用いて再テストを実施する。再テストにおいては、当初解答していたのと同じ試験問題を使って、中断が発生した以降の設問のみを解答する。

- ①解答時間中に、万一、ICプレーヤーに故障が発生した場合、問題冊子の乱丁・落丁・印刷不鮮明があった場合、また、不慮の事故により試験が続行できない場合等、監督者の指示で試験を中止する等、受験者の責によらない事象が起こった場合。
- ②解答時間中に、他の受験者が体調不良等で退室する場合、監督者から周囲の受験者に対して試験の中止を指示することがある。この場合において受験者が監督者から試験の中止を指示された場合。

3. その他の留意事項

- (1) 受験案内、受験票は入学手続が終了するまで大切に保管すること。特に受験票については、例年、センター試験終了後に約5,000件の再発行申請があるので、なくさないよう気をつけること。
- (2) 新教育課程履修者なのか旧教育課

履修者なのか、受験案内をよく読んで自覚すること。新教育課程履修者は、旧教育課程の科目や問題を選択解答できないこと。

- (3) 受験票に記載の試験場以外では、いかなる理由があっても受験できないので、可能な限り下見を行い、道順等を確認しておくこと。
- (4) シャープペンシルは、解答が読み取れない事例があるので使用しないこと。
- (5) 受験番号や解答科目欄のマーク忘れや誤マークをしないこと。

4. 大学入試センターのホームページにICプレーヤー操作ガイドを掲載

平成17年9月26日から、ホームページに「英語リスニングテストで使用するICプレーヤー操作ガイド」を掲載している。本試験で使用するICプレーヤーの画像を見ながら、メッセージに従い、1電源ボタン、2確認ボタン、3再生ボタンを順にクリックすることにより、操作の疑似体験ができる。

◆操作手順

- (1) 大学入試センターのホームページにアクセス→<http://www.dnc.ac.jp/>
- (2) トップ画面右上の赤ボタン「センター試験リスニングテスト」をクリ

- ック
- (3) センター試験リスニングテストの「◎英語リスニングテストで使用するICプレーヤー操作ガイド」をクリック

注：閲覧するためには、マクロメディアフラッシュプレーヤー（ソフト）が必要である。持っていない場合は、この画面からソフトのダウンロードを行ってからクリックする。

- (4) スタート画面をクリックすることにより、操作ガイドがスタート
- 以下、画面メッセージに従ってクリックしていくと、操作の疑似体験ができる。高校生等受験者、高等学校教員をはじめ大学関係者にも十分理解が得られる構成・内容としているので、是非アクセスして操作を体験願いたい。

※2回目以降のアクセス

マクロメディアフラッシュプレーヤー（ソフト）がインストールされているので、(2)(3)に代えてトップページ左上の最新情報の「2005/9/26英語リスニングテストで使用するICプレーヤー操作ガイド」をクリックしてもよい。そうすると(4)に進む。

5. 終わりに

以上、リスニングテストについて、その概要と受験者に留意願いたい事項

等について述べたが、4に記載の「ICプレーヤー操作ガイド」を除き、いずれも受験案内に記載している。留意事項等については、受験票とともに送付の「受験上の注意」にも記載し、周知を図っている。

18年度試験から初めて実施されるリスニングテストは、他の教科・科目の試験と異なる点が多いことから、受験者はもちろんのこと、指導に当たる高等学校教員がこの試験の概要や留意事項等を「受験案内」や「受験上の注意」によって理解することが重要である。

また、リスニングテストを円滑に実施するためには、センター試験の実施側である大学の担当者の理解が不可欠である。各大学には実施マニュアルを送付してあり、これに沿って試験を実

施するので、実施マニュアルの要点をまとめた資料も参考とし、試験業務を担当する監督者等関係者が十分理解を深め、当日の試験業務に当たることが肝要である。

なお、各大学が行う監督者等に対する説明会では、とりわけリスニングテストの監督業務は初めて行うものであるので、

- ・実際にICプレーヤーを使用し、操作方法を理解すること。
- ・監督要領に沿って、試験の進行を理解すること。
- ・事故等の発生を想定した対応を行うこと。

等、入念な説明と実践的な予行演習を繰り返し行い、全監督者がリスニングテストを習熟することが必要である。

